

浜嶋です。

こんにちは。

ある団委員さんとの話の中で、いつか団メールで送った「舎営時の昼寝」の話が出ました。スカウトの昼寝のプログラムは実はデンリーダーのためにやるものだという内容です。デンリーダーは、3泊4日の分刻みのプログラムを1日中するのは大変です。スカウトの昼寝としながら、デンリーダーの体を休ませてあげるといふ粋で深いおもいやりだと思っています。

ほかにもいくつか紹介しました。

1 スカウトの情報入手

私がカブ隊の隊長をする直前に、ビーバー隊の舎営に参加しないかと誘われました。なんでそんなことが必要なのと聞くと、隊長はつぎのうさぎスカウトを事前に知っておかないといけないよ。ということでした。舎営に参加して、スカウトたちと新しいカブ隊の隊長として馴染むことができたことと、生活を共にしてスカウトの行動特性や個人の性格を少しわかったことがよかったです。

2団には、こうしたやり方が定着していたのだと感動しました。

2 ビーバー隊のお別れ会でのこと

(1)ボーイ隊内賀嶋隊長からの依頼

18日の団会議で、19日の隊集会時に保護者と連絡を取りたい。何時がいいかとの質問でした。

お別れ会の最後のセレモニーは全員がいてほしい。他のゲームか休憩時間にしてほしいと了解してもらいました。

当日もその時間に部屋には顔をだしていました。セレモニーの重要性を理解してくれた上でのおもいやりだと思います。

(2)お別れセレモニーでは

私は後で自分の失敗を悔やみました。一部の保護者が不在のままにセレモニーを始めてしまったのです。部屋に戻して上げられなかったことを悔いています。隊長や副長も誰も気づかなかったのかな。いや、人のせいにははいけません。

1月から準備してきた白崎隊長のお別れの言葉、下村新隊長のお別れの言葉、スカウトからのメッセージの贈呈、「贈る言葉」の合唱、私からのビッグビーバー一人ずつへの手紙、藤丸副長のエール。感動のお別れセレモニーを全員に聞いてほしかった。見て欲しかった。しかし、時間は戻りません。保護者に大変申し訳なかったです。

(3) せっかくのチャンス

カブ隊の中西隊長と川辺新隊長が2階の洋室におられたのです。私が、舎営に参加したことと同様に、お別れセレモニーに同席してもらったらよかったと、これも後になって悔いています。新しいうさぎスカウトの様子を知ることができるチャンスでした。

失敗ばかりです。素直に反省して、次に生かします。まだまだ頑張りたいと思っていますので、優しく見守ってください。

3 質の向上とは

やるべきことができるという目に見える質の評価がありますが、目に見えないおもいやりの質も同様に深めることが重要です。伝統があり、正統なやり方を続けてきた2団、私たちは先人が築き上げた深いおもいやりを秘めたやり方を獲得して、それを後輩に伝えていく責任があります。ノウハウの共有を広げることが重要です。十分に理解するためには、時間をかけて話し合うことが必須です。また、一人一人ではなく、ノウハウの伝承は全員でやらないとうまく伝わっていきません。

私は、ボーイスカウトに深いおもいやりの心があることを知っているからこそ、ボーイスカウトが好きです。人生の幸せ、素晴らしさを感じます。

こうして、皆さんにお伝えするのも、ボーイスカウトの良さを少しでも獲得してほしいからです。

若い指導者に期待しています。

私の目標と実践

～保護者の理解が深まれば、2団が変わります。全員でスカウトを育てよう～